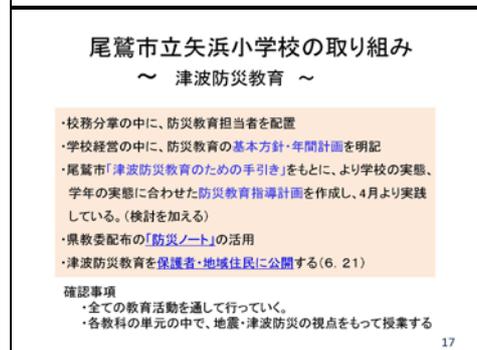
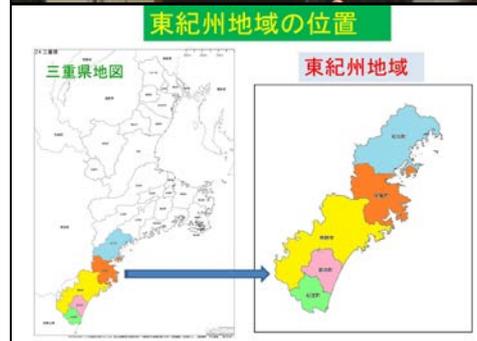


8. 三重県尾鷲市からの実践報告

(1)尾鷲市教育委員会の取組

大川 太 (尾鷲市教育委員会 主幹)

- 1.尾鷲市の全景図です。尾鷲市の人口のほとんどがここ（尾鷲湾）に住んでおります。尾鷲市はこの山の向こうにも周辺部があり、そちらにも小さな町が点在しております。一番人が多いということで、ハザードマップ等はここを例にして作っていただいております。
- 2.地域の位置ですが、三陸の釜石と同じリアス式で入り組んでおりまして小さな湾がたくさんあります。
- 4.高齢化が進んでいる地域です。
- 5.今までも防災教育を実施してきましたが、自分たちが津波を見た、体験したという人間がいまませんでした。ですので、お年寄りの体験を聞くということではつないできました。
- 7.私は 3.11 のとき、矢浜小学校の 4 年生の担任をしておりました。帰りの会をしているときに、市のマイク放送が入りました。何かなと思いながらも、子どもたちを教室に残して、職員室へ戻り、何が起きているか確認したところ、東北で大きな地震が起こったとのことでした。そこまではわかっていたのだけれど、津波の注意報や警報は後になって出てきました。学校ごとにこのときの対応はバラバラでした。海辺の方に家がある子どももいましたので、もしあのまま津波警報がでていのに、子どもを帰してしまい、大津波が来たら相当な被害を被っただろうと思います。ですから、「今まで学習してきたことはいったい何だったのか」、教師自身にもそうでしたし、子どもたちも「津波から逃げるということは身に付いていない」、状況に気づかされました。なにより「学校というところは大丈夫なところだ」という認識でした。
- 8-9.そして、3.11 を迎え、これではいけないということで、それぞれの学校での取り組みがスタートします。片田先生に学校教育の中へ入っていただき、津波避難 3 原則を中心に教職員、子どもたちへ話もしていただきました。
- 10-11.尾鷲市でもワーキンググループを立ち上げ、年の中で何回か積み上げていき、話し合いを進めながら、学校ごとにリーフレットを作りました。何が良かったかという、学校が「自分たちはこうします」ということを保護者や地



域にきちんと話ができるようになりました。市全体で統一できたということが、一つ大きなところでした。

12.リーフレットには、「うちの学校はこういう風に逃げます」、「こんな危ないところがあります」といった現状における各校の課題などを書き込みました。また、リーフレットは、「広報おわせ」と一緒に全住民に配布しました。

13-16.一方で、釜石の防災の手引きを元にした尾鷲市なりの手引きもつくり、それを活用した授業もはじめました。尾鷲で暮らしていくための姿勢づくりということで、今までは「津波来るかもしれない」ということから「必ず来る」という意識付けをすること。3原則を徹底すべきということ。尾鷲に住むということは、「津波もたまにくるけれど、良いところだな」というふるさとを大切にするという気持ちを大事にしていこう、と考えています。

17-19.市内の矢浜小学校では、防災教育担当者を配置、防災ノートの配布、講演会のチラシを保護者、地域住民に配布等しました。

29-34.避難訓練の際に、すぐに渋滞してしまう山への道に対し、それではいけないと、保護者の方の協力でビデオ撮影し、子どもたちへ見せ、途中で止まらず駆け登る努力を促しました。子どもたちは本当に上まで駆け登るようになりました。また、木が生い茂っている山へ登る道を保護者の力を得て切り開きました。「市の方で材料は提供するので、自分達で何とかしてください」というかたちで階段もつけました。保護者の方々もみんなが参加してやりましたので、自分たちの避難路という感じでした。これについては地域の方々にも使っていただくようにしています。

35-38.耐震化については、尾鷲は遅れており最近やっと新しい校舎が建ちました。写真は輪内中学校です。もともと浸水域ですが、かさ上げしまして、津波が来たときでも抜けていき、校舎が倒れないようば構造になっています。「浸水域になんでこんなもの建てるんだ」という方もいらっしゃいましたが、片田先生にも色々ご意見いただき、必要なものだということで建てました。ここに給食室がありますので、もし何かあっても、この施設が残った場合は、ここが地域の方たちの食の拠点にもなるということで建ててあります。学校の裏にもすぐに避難路へ行けるように橋を付けてあります。

39.今後の課題は本当に避難ができるのかということです。



「本当に避難行動ができる子ども」を育てる

- ・防災教育を一過性のもので終わらせるのではなく、学校教育全体のあらゆる場面を通じて、全職員で、地道に行っていくことが重要だと考えます。
- ・また、保護者や地域としっかりコミュニケーションをとり、津波防災に対する共通の認識をもって行動することをめざします。
- ・津波防災教育やそれと連動した避難訓練等をもとに、子どもたちに「自分の命は、自分で守る」という意識と行動を育みたいと思います。